

福島第一原子力発電所から7キロの場所の 豊かな暮らし



笛とうたと畑と田んぼと海を満喫してます

1982年 千葉県生まれ。東京で音楽関係の仕事に従事。

2014年 当時全町避難中だった大熊町の復興支援員となり
いわき市を拠点に町民のコミュニティ支援を担当。

2019年 4月10日の大熊町の一部避難指示解除とともに町内へ移住。

2022年 HITOkumalabの屋号で開業。
コミュニティ支援を中心に事業を展開。

**福島第一原子力発電所事故に対する強い「怒り」が
私の移住の動機でした。**

**もともとこの地にあった暮らし・文化等を
生きた形で残していくことを目指して日々活動中。**

東日本大震災と福島第一原子力発電所事故と大熊町



大熊町は福島第一原子力発電所事故による影響で、全町避難を余儀なくされました。

2019年4月10日に一部地域で避難指示が解除になり、原発事故から8年後、やっと町内に人が暮らせるようになりました。

写真は現在も続く廃炉作業の現場、福島第一原子力発電所構内のもの、

右側の写真はかつて大熊町で一番のにぎわいがあった駅前商店街が帰還困難区域だった頃のものです。

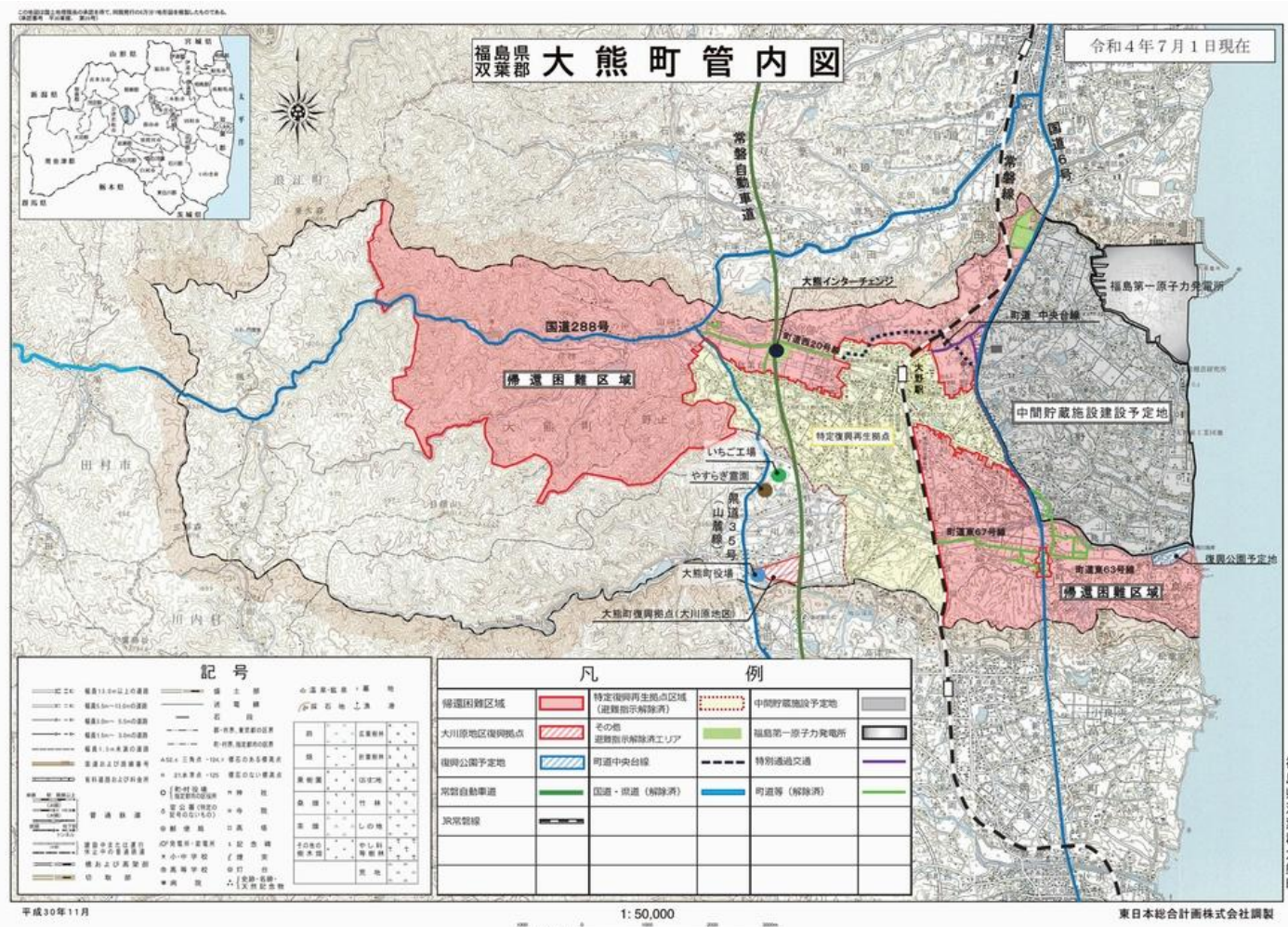
駅前には2022年6月30日は避難指示が解除し現在は新しく生まれ変わりました。



**2019年4月10日！震災から8年が経ち、
やっと町内の一部地域で居住できるように！**



いまだ残る避難指示区域そして中間貯蔵施設の存在



町内には帰還困難区域が残っている。特定帰還居住区域など、徐々に除染し解除される方向で動いている。中間貯蔵施設、県内の除染で発生した除去土壌を大熊町・双葉町にまたがる中間貯蔵施設にて保管・管理している。2045年までの中間的な貯蔵。大熊町は海のある町であるが、この二つの区域を海側に有するため、許可なく立ち入ることができず、日常的に海に親しむことはできない状況が続いている。

学校機能が町内に帰還、移住者が増加中！



町内人口は1000人程度。うち700人は東京電力の方。町民の帰還は100人～200人程度です。大熊町の人口は震災当時11505名。現在は10000人ほど。うち7000人は県内に避難。避難先で生活している人がほとんど。学び舎ゆめの森という名前で再スタートした大熊町の学校機能。会津若松市に拠点を置いていたが、2023年4月から大熊町内に戻ってきた。30人程度と少ない人数でスタートしたが、現在は90人程度に増加。確実に学校の存在は町を明るくしてくれました。子どもたち、そして保護者、移住者増のきっかけになっています。

帰還者も移住者も
 復興支援員 起業家 農家 団体職員 飲食店 施設スタッフなどなど・・・



全員が移住経験者の大熊町

大熊町のひとたちの強さと優しさと明るさ



変化を続ける大熊町。

そんな大熊町に暮らす
私が大事にしていることが3つあります。

ひとつめ、コミュニティ支援

復興支援員としてのコミュニティ支援の経験から



復興支援員として組織化支援を実施（2014～

- ・ 11団体の避難先コミュニティ団体組織化支援を実施

復興支援員として帰還後の 町内コミュニティ支援を実施（2018～

- ・ おおくまコミュニティづくり実行委員会の設立
- ・ 大熊の人材や町内情報の発信



復興支援員を辞めてからのコミュニティ支援（2021～

- ・ 情報発信（大熊町での暮らしの様子等）⇒帰還促進

・ 「好きなこと」で広域につながる

（おおくまふるさと塾、RainbowMusicClub、熊川稚児鹿舞保存会、平馬会、いわきおどり、ふくしま浜街道トレイル、おおくままち3. 11のつどい有志の会、大熊町ひまわりプロジェクト・・・などなど）

いち町民としてのコミュニティ支援

みんな何足も草鞋（わらじ）を履いている

- ・ 農業（キウイ栽培、稲作）道平農園
- ・ 大熊町ひまわりプロジェクト
- ・ おおくまコミュニティづくり実行委員会
- ・ おおくまふるさと塾
- ・ 熊川稚児鹿舞保存会
- ・ 平馬会
- ・ 大熊町相馬流れ山踊り保存会
- ・ おおくままち3. 11のつどい有志の会
- ・ 「おおくま・おらほのカルタ」で再発見実行委員会
- ・ いわきおどり有志の会BestBuddiesOkuma
- ・ 大熊町商工会女性部 副部長
- ・ 双葉郡大運動会実行委員会
- ・ 海開きやっぺ実行委員会
- ・ おおくま中通り会 事務局
- ・ 未来双葉会
- ・ 双葉町未来をつなぐ赤い糸事業実行委員会
- ・ 音楽サークルRainbow Music Club

- ・ NPO法人ふくしま浜街道トレイルアソシエーション
- ・ HAMADOORI 13事務局
- ・ HITOkumalab代表



3期10人に起来又抜

HAMADOORIフェニックスプロジェクト (仮称)

事業家氏名	事業概要	活動場所
小林 実 (28)	まちづくりに取り組む若い世代の交流の場を創出する	大熊町
中村 泰典 (27)	地元産の食材を使った料理の提供と、地元産の食材の活用を推進する	大熊町
立川 龍之 (28)	小規模な店舗を運営し、日本酒やクラフトビールなどの販売を行う	大熊町
大熊 草太 (26)	地元産の食材を使った料理の提供と、地元産の食材の活用を推進する	大熊町
原口 拓也 (23)	地元産の食材を使った料理の提供と、地元産の食材の活用を推進する	大熊町

■第3期ランナーアップ

事業家氏名	事業概要	活動場所
根本 孝太郎 (27)	地元産の食材を使った料理の提供と、地元産の食材の活用を推進する	大熊町
佐藤 純希 (27)	地元産の食材を使った料理の提供と、地元産の食材の活用を推進する	大熊町

「浜通り13」プロジェクト

「浜通り13」プロジェクトは、浜通りの13市町村の若手経営者で構成された事業家ネットワークです。互いに支え合い、地域活性化のための取り組みを行っています。



こども縁日 ― 各種飲食店出店 ― キッチンカー ― 展示 ― 大熊町観光協会主催 ― 花火大会 ―

お囃子体験 — いわき踊り — たにし踊り — 仮装盆踊り

あさって8月30日、なつ祭りを開催！
ぜひお越しください！

與、雜、端。

2025.8.30(土) 14~19時 大熊町役場前広場

荒天の場合は翌 31 日に順延

主催 おおくまコミュニティづくり実行委員会

みつつめ、農業！！！！

フルーツの香り漂うロマンの里



大熊町写真館（梨の収穫（2007年9月25日撮影））より <https://www.town.okuma.fukushima.jp/site/shashinkan/9617.html>

2019年、大熊町で農業がはじまる！ ネクサスファームおおくま稼働開始！



米農家はじめました！！！！！！



甘酒

帰忘郷 あまざけ



アルコールが飲めない方のために、大川原の田んぼで栽培されたお米「五百万石」の一部を使用しノンアルコールの甘酒も製造しました。

お米の粒が際立つ甘すぎず、上品な甘酒に仕上がりました。

明治39年より伝承する糴製法を駆使し、国産原料を使った味噌やあま酒、三五八（さごはち）漬の素などの糴製品を手がけ次世代に、糴の持つ素晴らしい力と日本の食文化を伝えている株式会社宝来屋本店へ製造を依頼しました。

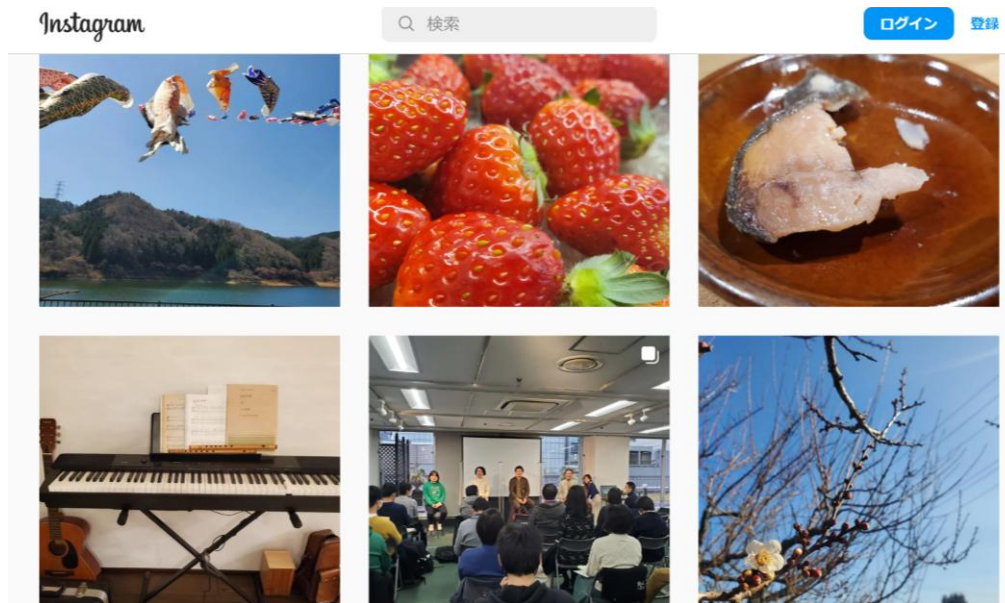
双葉のお米を食べて育ちました。震災までお米はずっと双葉産のものを食べていました。この地域の田園風景が好きです。昨年从我家でも稲作をはじめました。帰忘郷あまざけの原料となっています。

この地域にもっともっと田んぼが増えますように。自分の住んでいる場所でとれた野菜を食べて生きていきたい。

農業の復活＝地域の復興という想いが強くあります。

若手農家が活躍してます！

私目線のこの地域のこと、^{ほぼ}毎日発信



佐藤亜紀(大熊町) @310akiokuma · 1月11日

大熊町熊川の大先輩直伝の鮭の塩引き！
完成〜〜！！



8



45



2,459





福島県へ、双葉郡へ、大熊町へ、
ぜひ遊びにきてください！

